

◎年間総括・保護者アンケート・職員の自己評価・第三者委員との話し合いをもとに、保育園の全体的な計画に沿って園評価を行う。

実践・評価・反省

～子どもの全面発達の保障・より良い保育のために…職員同士のチームワークこそ大事！～

・個別の配慮が必要な子どもへの対応と集団保育に悩んだこの一年。発達特性が強い子や小児てんかんなど確実に医療や療育との連携が必要な子だけでなく、動きが活発で目が離せない子、かみつきや手出しが多い子、かんしゃくのように自分の思いを表現する子、体調がすっきりせず気持ちよく過ごせない子、保護者の不安が子どもにも現われている子、等々、クラス担任は集団保育の中でどう個別的な関わりを保障してあげたらよいか本当に悩み、クラスでできることには限界もあるのでその都度みんなで考えあつてきた。子どもの姿を色々な視点で捉え、学んだことと照らし合わせながら様々な仮説を立て、実践しては上手くいったりいかなかったりを繰り返し…。そして、個を大事にしたから集団を大事にできたこと、集団の土台があれば個も入っていけること、個が集団に繋がる瞬間が出てくること等を今年度の実践を通して学ぶことができた。保育の悩みは尽きないが、チームワークの良さが保育者自身の安心感にもつながることを実感した。今後もみんなで悩んで助け合って保育していきたい。

・ひなまつり会では、子どもたちがいつものようなしぜんな姿でのびのびと、いきいきと遊んでいたりと、本番を楽しみに張り切り頑張っ最高姿を見せてくれたりと、安心して自分を表現できる関わりや、友だちや保育者と共感しあう楽しさを日々の保育や生活の中で積み重ねてきた土台があったからこそその姿だと思った。悩みに悩んだ一年だったが、子どもの成長とともに保育の手応えも感じることができ、みんなで頑張ってきて良かったと思う。

～保護者とともに～

・今年度は運動会もひなまつり会も保護者を呼んで開催できた。子どもたちの姿とその場の雰囲気や空気感から、日々の保育やこれまでの保育の積み重ねが一瞬で保護者に伝わった気がした。また、3年ぶりに実施できたクラス懇談会では、保護者がこういう場を待ち望んでいた様子がひしひしと伝わってきた。コロナ禍で保護者が園内に入ることや一堂に会することを制限してきたが、やはり保育園は子どもも保護者もみんなが集い交流できる場でありたいと改めて思った。

・保育園に関するアンケートの回収率が今年度は69.7%と低かった。配布の仕方や提出方法について第三者委員会で助言をいただいたので、来年度は100%を目指していきたい。連絡帳の書式やあり方を見直してから、毎日その日の保育の様子をおたよりで掲示しているが、子どもたちの様子がよりわかりやすいように、保護者に伝わりやすくなるようにと保育中に撮った写真をたくさん添えている。しかし保護者は我が子の様子を知りたいから直接保育者から話を聞きたいし、連絡帳に書いてほしいという思いが強いことがアンケートから見えてきた。クラス担任をはじめ私たちは話す努力や伝える努力はしているが、日常の挨拶や何気ない会話などコミュニケーションを大事にしていけると良いのかなと思う。

・子育て支援センターでは、パンフレット配布や公園巡回などPR活動にも努めてきたがなかなか利用者数が増えず悩んだ一年だった。担当者同士でもよく話をし振り返り、研修で学んだことですぐに活かせるようなことは実践へと繋げたり改善にむけて取り組んできた。

・病後児保育は延べ172件の利用があった。まだコロナ禍ではあるが徐々に利用が増えてきている。（昨年度は68件） 昨年度はさくらんぼの園児が多かったが、今年度は他園の利用も増えた。未就園児の受け入れもあった。

実践・評価・反省

～保育園はみんなの財産～

- ・園舎建設返済が終わったところで、今度は修繕計画が始まった。昨年度の園庭改修に続き、今年度は屋根と外壁の塗装と空調工事が無事完了した。保護者も修繕バザーやカンパにたくさん協力してくれて本当にありがたい。次は床の補修や防災カーテン等、内装の修繕も必要なので計画的に修繕費の積立をしていく。
- ・今年度は光熱費をはじめ様々な物価高騰により、運営費のやりくりが本当に大変だった。光熱費と食材費については市の補助金に助けられたが、給食費は物価は上がるのに副食材費は変わらないのでとても厳しかった。南アルプス市も、保育料無償化も良いけれど給食費の無償化もすすめてほしい。
- ・光熱費の高騰で運営費のやりくりが大変だった時、職員一人一人が我が事として捉え、節電対策に心がけてくれたことは本当に嬉しかった。これからもみんなで保育園を大事にしていきたい。

～コロナ禍の保育を振り返って～

- ・コロナ禍の保育ももう3年。“保育を守る、命を守る”という思いはみんな同じで、最初の頃は“コロナだから仕方ない”と感染対策を最優先・重要視しながらの保育だった。今までのような保育や生活が出来なくなった分“子どもにとって大事にしたいこと・保育のねらいは何か”を一つ一つみんなで何度も話し合い考え合ってきた。日々模索し試行錯誤の苦勞の末に新たな実践が生まれた時の手応えや学びは大きく、自信にも繋がった。
- ・コロナ対策でマスクや消毒、換気が当たり前となり、子どもたちは以前より手洗いが習慣になったように思う。子どものマスク着用は活動により外したりもしてきたが、マスクによる弊害については再度学習しながら検証していくと良いか。
- ・感染症の流行や罹患状況については、当初はコロナ対策のおかげなのかあまり病気が流行らなかったが、徐々に胃腸炎をはじめ手足口病やヘルパンギーナ等、感染症が出始めると一気に拡大した。コロナ感染については家族内感染が多かったように思う。保育園でクラスター発生とまでにはならず、ほっとしている。今後は対応が変わっていくが感染症がなくなるわけではないので、何を・どこまで・どのようにしていくかがまた難しい。その都度的確に情報を掴み対応を確認・検討していく。